

学 位 論 文 審 査 要 旨 公開審査日 2017 年 2 月 22 日 (水)

報告番号：甲 第 1707 号	氏名：中山 祐介	
論文審査 担当者	主査 教授 行岡 哲男 印	副査 教授 土田 明彦 印 副査 教授 河合 隆 印
<p>審査論文の題目：Positional relationships of abdominal aortic branches for contrast radiography of the inferior mesenteric artery using the coeliac trunk and superior mesenteric artery as landmarks (腹腔動脈および上腸間膜動脈をランドマークに用いた下腸間膜動脈造影検査法)</p> <p>著 者：Yusuke Nakayama, Shogo Hayashi, Kyoko Takeuchi, Shinichi Kawata, Ning Qu, Masahiro Itoh</p> <p>掲載誌：Okajimas Folia Anatomica Japonica (in press, 2016)</p>		
<p>論文要旨：</p> <p>下部消化管出血では、血管造影による検査・治療が必要なことがあり、この場合、下腸間膜動脈 (IMA) の入口部同定が必要である。しかし、しばしこの位置同定が困難な症例が存在する。そこで本研究は、腹腔動脈 (CT), 上腸間膜動脈 (SMA), 左腎動脈 (Lt-RA:) の相対的位置関係が IMA 分岐部の特定に資するか否かを検討したものである。</p> <p>ご献体者遺体 60 例のうち、動脈硬化性変化や血管蛇行などの少ない 32 例を対象とした。腹部大動脈腹側を血管内腔側からデジタルカメラで撮影し、PC 上で各血管の入口部径や各分岐部間の距離を基本データとした。</p> <p>CT, SMA, IMA の分岐部断面の縦横比は概ね 0.6~0.7 と横長の楕円形であった。各血管の縦径は有意に異なっていた (全て $p < 0.0001$) が、SMA の縦径は CT の縦径と有意な正の相関を認めた ($r = 0.55$, $p = 0.0013$)。SMA-IMA 間の距離は、CT-SMA 間の距離および CT-CoI 間の距離との間に有意な相関を認めなかったが、CT から CoI 間における CT-SMA, SMA-IMA, IMA-CoI 間距離の相対的比率は約 13% : 54% : 34% であり、SMA-IMA は CT-SMA の約 4 倍であった。</p>		
<p>審査過程：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の計測結果 (特に比率) は画像上 (透視画面) 上でも適応できるのかに関し質疑が行われ、妥当な説明がなされた。 ・本研究は高齢のご献体例での調査であったが、若年者の場合の議論が行われ、十分な説明がなされた。 ・今回の結果に関し、血管蛇行等が大きい例への適応に関し質疑がなされ、今後の検討課題となることが示された。 		
<p>価値判定：</p> <p>IMA 分岐部は、CT-SMA 間の距離に対する比率である程度類推できるという解剖学的検討結果が示された。下部消化管出血の血管造影において IMA 入口部の同定困難な場合は、CT と SMA の位置関係が参考になり得ることを示唆する研究であり、臨床的応用性の観点からも、学位論文としての価値を認める。</p>		